

市長定例記者会見（平成 27 年 10 月 15 日）

市制 90 周年記念 「アートでたどる西宮探訪展」
～レオポン剥製 2 体、里帰り～

1. 実施概要

市制 90 周年を記念し、西宮ゆかりの芸術家が西宮の風景の一コマを切り取り、あるいはイメージして制作した、絵画、デザイン、書、写真、彫刻作品 46 点を展示する展覧会を開催する。これらの作品は市民会館が開館した昭和 42 年と中核市に移行した平成 20 年という節目の年に制作されたもの。展覧会では作中風景の現在の写真を添えて西宮の各地を仮想探訪するとともに、作家の足跡を回顧する。

また、国内唯一、旧甲子園阪神パーク（2003 年春閉園：現らぼーと甲子園）で誕生、生体展示されていたレオポンの剥製 2 体を天王寺動物園から借り受け、同時展示する。

- (1) 展示期間 平成 27 年 11 月 17 日（火）～11 月 22 日（日）
- (2) 展示時間 午前 10 時から午後 5 時（最終日午後 3 時まで）
- (3) 展示場所 西宮市立北口ギャラリー第 1～第 3 展示室
（アクタ東館 6 階 西宮北口駅から北東歩いて 5 分）

2. 主な展示作品

画	「 夙川堤 」	須田 剋太(すだ こくた)
デザイン	「西宮インターチェンジ」	今竹 七郎(いまたけ しちろう)
書	「 西 宮 」	加登 亙川(かと こうせん)
写 真	「甲子園リニューアル」	大野 ユタカ(おおの ゆたか)
彫 刻	「 今津灯台 」	柴田 芳弘(しばた よしひろ)

3. レオポン剥製について

レオ吉（オス）（1959～1977） ポン子（メス）（1959～1974）

甲子園阪神パークでは、ヒョウの「甲子雄」（かねお）を父親、ライオンの「園子」（そのこ）を母親として、1959 年 11 月 2 日から 3 日にかけて、最初の 2 頭が誕生した。兄は「レオ吉」、妹は「ポン子」と命名。

【レオポン (leopon)】について

ヒョウの父親とライオンの母親から生まれた雑種である。頭はライオンに、体はヒョウに似る。

最初のレオポンは1910年にインドマハラシュトラ州のコラプールで誕生。2匹が生まれ、うち1匹は2か月半で死亡。

その後、1959年に兵庫県西宮市の甲子園阪神パークで出産に成功、ドイツハンブルクのハーゲンベック動物園、またイタリアでも誕生。

現在では生命倫理の観点から、レオポンを作る試みは行われていない。

甲子園阪神パークでは、ヒョウの「甲子雄」(かねお)を父親、ライオンの「園子」(そのこ)を母親として、1959年11月2日から3日にかけて、最初の2頭が誕生した。兄は「レオ吉」、妹は「ポン子」と命名。

1961年6月29日には、3頭が誕生し「ジョニー」、「チェリー」、「ディジー」と名づけられた。1985年7月19日に最後の1頭「ジョニー」が死亡した。

死後5頭すべてが剥製にされ、甲子園阪神パーク閉園後は、「レオ吉」と「ポン子」は大阪の天王寺動物園に、「チェリー」と「ディジー」は東京の国立科学博物館にそれぞれ引き取られ、保管されている。「ジョニー」は鳴尾浜のリゾ鳴尾浜で現在も展示されている。(ウィキペディアより)